

子供と高齢者を始めとする歩行者の安全の確保

お子様の入園・入学のシーズンにあわせ、あらためて通園・通学路の安全を確認しましょう。令和2年の交通事故死者 59人のうち、65歳以上の高齢者は 44人。特に歩行者の死者は 20人中高齢者が 16人と、全死者の8割に達しています。道路を横断する時、近くに横断歩道がある場合は必ずその横断歩道を利用し、信号機のない横断歩道を渡る時は、手を上げたりアイコンタクトをするなど、ドライバーに対する意思表示を心掛けましょう。また、夜間の外出時は反射タスキなどを着用し、周囲に自分の存在を知らせましょう。



歩行者等の保護を始めとする安全運転意識の向上

横断歩道は歩行者優先！

令和2年に日本自動車連盟（J A F）が実施した調査では、香川県における信号のない横断歩道での車両停止率は 12.1%で、全国ワースト7位という結果でした。ドライバーは横断歩道の手前では減速し、歩行者がいる場合は一時停止というルールを遵守しましょう。



高齢者は自身の身体機能を再確認！

運転に不安を感じる方は家族や安全運転相談ダイヤル（#8080）に相談し、場合によっては運転免許の返納を検討しましょう。

運転を続ける方は、衝突被害軽減ブレーキ等の先進安全技術を搭載した安全運転サポート車（サポカー）への乗り換えも検討しましょう。



全ての座席のシートベルトの着用とチャイルドシートの正しい使用の徹底

令和2年、四輪乗車中に亡くなった方 22人のうち、15人がシートベルト非着用でしたが、11人は着用していれば助かった可能性があります。シートベルト非着用で事故に遭ったときの致死率は、着用時の 15.6 倍。乗車時は後部座席を含む全ての座席で必ずシートベルトを着用しましょう。また、6歳未満の幼児にはチャイルドシートを正しく使用しましょう。



自転車の安全利用の推進

自転車による事故は年々減少していますが、全ての事故に占める自転車事故の割合は増加しています。自転車利用時のルールを守り、「止まれ」の標識では必ず停止し、標識がなくても、見通しの悪い交差点では必ず一時停止して安全を確認しましょう。



また、令和2年に自転車の事故で亡くなった方は 13人で、全員がヘルメットを着用していませんでした。事故の際に頭部への衝撃が致命傷となることが多いため、ヘルメットを着用しましょう。

飲酒運転の根絶

令和2年に飲酒運転による交通事故で亡くなった方は 7人。飲酒運転根絶のため、以下の3つの約束を必ず守りましょう。



車より 人が優先 讀岐マナー